

復興庁総合フォーラム

東日本大震災からの復興の現状と取組

日時 2015年3月15日（日）13：30～15：30

場所 東北大学 川内萩ホール

被災地で活動する方々の声

佐藤 隆氏（福島県いわき市出身）：

皆さん、こんにちは。福島県いわき市から来ました、高校3年生の佐藤隆です。とは言っても、つい先日、無事に高校を卒業しましたので、この学ランは、ちょっとコスプレみたいな感じになっちゃうんですけどね。でも、勝負服として、この学ランをまとして、この場に立ちました。

そんなことはさておき、まず皆さんに質問があります。東北の中高生の役割って、なんだと思いますか。全国どこにでもいる中高生ではありません。東北の中高生です。その役割を、僕は見つけました。その気づきの原点は、4年前、東日本大震災でした。震災のとき、私は幸運にも、家を流されるわけでもなく、家族や友人を失うわけでもありませんでした。しかし、そんな私にも、忘れられない出来事が起こりました。

震災から約1週間がたったとき、地元のスーパーが久しぶりにオープンしました。そこで、父と2人で買い出しに行きました。大量の水や食料、保存食などを買い込みました。しかし、そこで、ある1人のおばあさんを見かけました。そのおばあさんは、両手にたった一つずつだけ、カップラーメンを持ってレジに向かいました。私たちよりも、絶対に体力はないし、病気を抱えているかもしれない。そして、これから何があるかわからない。そんな現状の中、たったカップラーメン二つだなんて。そう思いましたが、私はたくさん持っている水や食料品を、渡すことはできませんでした。きっとこのことは、誰が聞いても「でも、緊急事態だからしょうがないよ」と言われることだと思います。しかし、このことで、私の胸に強く残ったのは、大きな、大きな無力感でした。

こんな無力感を抱えたまま、私は高校に進学し、OECD東北スクールというプロジェクトに出会いました。先ほど説明にもありましたが、OECD東北スクールとは、福島大学が主催、そしてOECD、文部科学省が協賛している復興教育プロジェクトです。この写真にもあるように、フランス、パリの舞台上で、東北の魅力を発信するイベントを実施する。そして、実施するための準備を通して、たくさんの学びを得る。そういったプロジェクトです。

私はこのプロジェクトで、生徒総括リーダーを務めました。リーダーとして、本当にたくさんの課題にぶつかりました。中でも一つ、本当に大変だったのは、メンバー間の温度差です。こんなに大規模なイベントを行うんだったら、全員の温度はマックスじゃないとダメだ。そう思って、僕は、ときには厳しい口調で指示をすることもありました。しかし、一向にその温度差は埋まりません。そこで私は気づきました。被災体験も違う、年齢も違

う、性別も違う、そして住んでいる地域も違う、このイベントは、被災地から約 100 名の中高生が集まっています。そんなバックグラウンドが全く違うメンバーがいる中で、同じ種類の温度になるわけがないんです。そう気づいてからは、それぞれのメンバーが抱えている軸となるもの、軸となる思いを、イベントに向けてあげる。そういったコンセプトで、リーダーとして活動してきました。

結果的に、去年の夏、8月30～31日に、フランスのパリで、イベントを行った際は、大成功を収めることができました。

次の写真が、これがステージの前の写真です。本当にこれはシャン・ド・マルス、大きく広がってるシャン・ド・マルスの、本当に真ん中のステージだけの写真です。ステージだけの写真でも、こんなにも人が集まってるのがわかると思います。これ、ものすごくいい写真だと思いませんか。ほとんどの人が立って、拍手をしたり、これはダンスを踊っている写真です。ま、この写真、僕が撮ったんですけどね。

このイベント、本番になるまで、僕は正直不安でした。リーダーとして、きちんと活動ができているのか、みんなの役に立てているのか。しかし、イベントが終わった後、みんなが僕を胴上げしてくれました。まあ、ちょっと高く上がっていないようにも見えますがね。

その後、みんなから、「陸さんがリーダーで良かった」といった言葉をもらいました。僕は本当にうれしかったです。「今までの努力は、無駄じゃなかったんだ」、そう思い、涙が止まりませんでした。

こういった OECD 東北スクールというプロジェクトに参加することで、私は、リーダーとしての経験、プロジェクトマネジメント、プレゼンテーションの能力など、たくさんを学ぶことができました。

このような経験から、先ほど言いました、私は、ある一つの東北の中高生の役割というものに、たどり着きました。それは、行動してみるということです。私は、震災後、無力感を感じ、そしてプロジェクトに出会った後、参加しないという選択肢もありました。しかし、参加をするという行動を起こしてみました。きっとこのようなプロジェクトは、ほかにもあったかもしれません。しかし、中高生が企画したこのようなイベントは、初めてだったと思います。だからこそ、いろんな人に話をすると、「君たちみたいな中高生が、こんなイベントをしてるなんて、すごいね。元気が出るよ。そして応援したくなる」という言葉をもらいました。一見難しそうなのに、中高生が一歩踏み出す、行動してみる。そのことに、大人の方はたくさんの元気もらい、そして巻き込まれたい、応援してあげたい、そういう思いになるようです。中高生、僕たちの立場には、私たちにしか生み出せないアイデア、価値観があります。それは、本当に大きな、大きな価値を持っているようです。私は、たくさんの大人の人から教えていただきました。だからこそ、私たち中高生は、行動してみる。そして、小さな、小さな一歩だけでも、周りの人を巻き込んでみる。こんなイベント、大きいイベントじゃなくてもいいんです。例えば、商店街とコラボ

して、夏祭りを盛り上げてみるでもいいし、例えば、仮設住宅に行ってお年寄りと話してみる、そんなことでもいいんです。自分がちょっと興味を持ったこと、ちょっと気になるなと思ったこと、それに対して一歩踏み出す、行動してみる。それが東北の中高生の役割ではないでしょうか。

さて、今、私が話したのは、東北の中高生の役割です。今、この場所に来てくださった皆さん、きっと東北の中高生ではない方が、ほとんどではないでしょうか。東北にいる大人の方、全国にいる中高生の方、全国にいる大人の方、そして海外の方、皆さんはどうですか。皆さんは、新しい東北の創造に向ける役割とは、何だと思えますか。自分たちの役割は何だと思えますか。それを発見する、気づく、そういった順番は、次は、あなたたちの番です。私たちは見つけました。だからこそ、今日帰る前に、「あれ？ 自分ってなんの役割を果たせばいいのかな」と、ちょっとモヤモヤするかもしれませんね。でも、ちょっと、ハテナを頭に思い浮かべながら出てもらえると、うれしいです。そんな気づきのきっかけに、僕の話がなったら光栄です。

ご静聴ありがとうございました。（了）